



# 記者懇談会

2024年3月7日

イーザイ株式会社

# エーザイ 定款第2条 企業理念の骨子

- **社会善：健康憂慮の解消と医療較差の是正を効率的に実現**
- ***hhc* Ecosystem：日常と医療の領域で生活する人々の「生ききるを支える」**
- **人財：安定的な雇用の確保、人権および多様性の尊重、成長機会の充実、働きやすい環境の整備**

# インパクトを効率的に実現

リターン(財務的成果)と共にインパクトを金額表示して  
重要KPI (Key Performance Indicator) とする、  
インパクト加重会計による人財投資効率 等の表示

健康憂慮の解消  
医療較差の是正

マルチ タレント・技術の集積

他産業やパブリック グループと  
協業するビジネスモデル  
(hhc Ecosystem)  
の樹立

# エーザイはリターンとインパクトを多様なタレントで効率的に実現する

## グローバル タレント

- **南アフリカ** 17名(24年度)  
将来のアフリカ成長を見据えた人財育成・交流(南アフリカOnline healthcare booking platformの運営会社「RecoMed」への出資を通じた、現地保険会社、クリニックチェーン、薬局チェーンなどのKey Playerとの直接交流)
- **イスラエル** 17名(24年度)  
**サウジアラビア** 34名(24年度)  
今後市場成長が期待される中東エリアへの自社販促基盤の確立
- **グローバルにおける低い離職率**  
**アメリカス** 10.2%  
**EMEA** 10.0%  
**中国** 16.1%



Eisai Pharmaceuticals Africa (Pty) Ltd.開所式  
左:駐南アフリカ共和国 牛尾 滋 日本国大使  
右:金澤 昭兵アジア・ラテンアメリカリージョン プレジデント

## グローバルHQs タレント

- **キャリア人財計**487名(全社員3107名に占める割合は16%)
- **専門人財獲得の加速**  
(2019年~2023年の採用数)  
**デジタル人財** 77名  
**法務/コンプライアンス** 13名  
**財務経理、CVI** 19名  
4年平均で85%の高リテンション率
- **人的資本への投資、ダイバーシティへの取り組み等を通じ、「従業員インパクト会計」によって可視化される社会的インパクトの向上に継続的に取り組む**  
(2025年度目標:人財投資効率82%、現在80%)

## 技術・新ビジネスモデル タレント

- *hmc* Ecosystem構築を加速させるデジタル人財の採用・育成強化に向けた新会社(Theoria Tech)の設立
- デジタルソリューションビジネスの基盤強化と迅速な拡大をめざしたArteryx社の株式取得
- 両社合計の採用応募者数は、対前年200%の高い関心を示している
- プロモーションの効率化を企図したオムニチャネルマーケティング人財、ビジネスアナリティクス人財の獲得の加速  
**オムニチャネルマーケティング** 43名  
**ビジネスアナリティクス** 83名

# インパクトの定量化 1

## DEC錠の無償提供

- リンパ系フィラリア症(LF)は蚊が媒介して感染する顧みられない熱帯病
- 熱帯・亜熱帯の開発途上国を中心に世界44カ国で約8.8億人が感染リスクにさらされている
- DEC錠<sup>\*1</sup>を含む薬剤の予防的集団投薬により制圧が可能。

エーザイは2013年からWHO<sup>\*2</sup>を通してDEC錠22.8億錠を30カ国に無償提供

### 集団投薬によるベネフィット:

- ①LF感染回避、②陰嚢水腫やリンパ浮腫の発症抑制、③急性発作や慢性症状の病状悪化抑制



LF患者様

### エーザイ製DEC錠を用いたLF集団投薬による社会的インパクト 算出方法<sup>\*3</sup>



DEC錠の社会的インパクト  
2014年~2018年

生涯インパクト約14兆円(うちエーザイDEC錠の貢献<sup>\*5</sup> 7兆円)  
年間約3,200億円/年(うちエーザイDEC錠の貢献<sup>\*5</sup> 1,600億円/年)

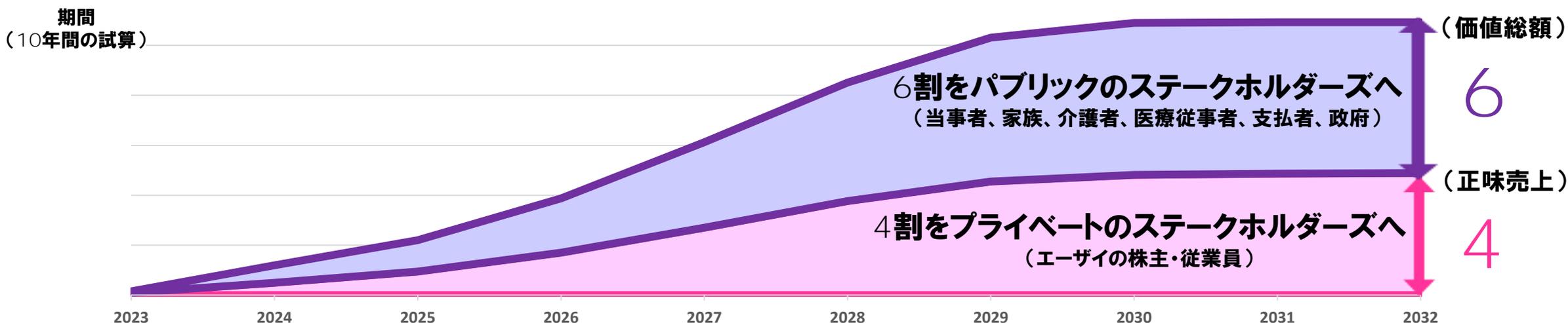
\*1 ジエチルカルバマジン錠 \*2 世界保健機関 \*3 柳・フリーバーグ:月刊資本市場2022年9月号 \*4 平均余命:ベネフィット①と②の場合43年、③の場合33年とした加重平均 \*5 DEC錠とアルベンダゾールの集団投薬で制圧されるため総インパクトを2割で案分

## 米国におけるレケンビ社会的価値の分配、Value-based Pricing

$$\text{年間価値}^{*1} = \frac{(\text{QALY:Quality-Adjusted Life Year}^{*2}\text{の追加分} \times \text{支払い意思額}) + \text{総費用の差額}}{\text{投与期間}}$$

$$\text{\$ 37,600/year/投与当事者} = \frac{(0.64 \times \text{\$200,000}) + \text{\$7,415}}{3.6}$$

QALY = 生存年数 × QOL、健康総和を表現、標準治療のQALY 3.7よりレケンビ治療により0.64加わる、すなわち、健康総和は約17%増大する



年間価値 = \\$ 37,600 / 投与当事者      年間価格(初期) = \\$ 26,500 / 投与当事者

\*1 全ての数値は現在価値で示される (支払い意思額を除く) \*2 Quality-Adjusted Life Year: QALYは健康アウトカムの価値を示す指標。生存年と生命の質を1つの指標数値にまとめ、1QALYは、完全に健康な状態での1年間に相当

# レケンビ 連続するアツプサイド イベント

# 医薬品ビジネスの基本

透明性

信頼

説明性

# レケンビ価値増大、Game Changer 1 米国 NASの増員（2024年度第1四半期）

NAS  
(Neurology Account Specialists)

**現状から30%増員**  
**ポテンシャルの高いエリアに配備**

**フィールドの司令塔として、  
マルチステークホルダーズの様々なニーズに応え、  
診断・治療パスウェイ構築を加速  
Biogen社との協業の強化**

# レケンビ価値増大、Game Changer 2 用法用量の変更（2024～25年度）

IV維持療法  
（2024年度 第3四半期）



SC-AI(皮下注 自己注射製剤)\* 維持療法  
（2024年度 下期）



SC-AI初期・維持療法  
（2025年度）

各時期は承認(FDA)見込み時期

\* SC-AI: Subcutaneous formulation with auto injector (Auto Injector付皮下注射剤)

# レケンビ価値増大、Game Changer 3 血液バイオマーカー(BBBM<sup>\*1</sup>)の普及(2024~26年度)

**トリアージ<sup>\*2</sup>用途：  
A $\beta$ 陰性をトリアージし、PET/CSFへの流れを  
減少させる(2024年度)**



**コンファマトリー用途：  
PET/CSFに置き換わってBBBMが用いられる(2026年度)**

# レケンビ価値増大、Game Changer 4 かかりつけ医の診断・治療への本格的参入（2027年度）

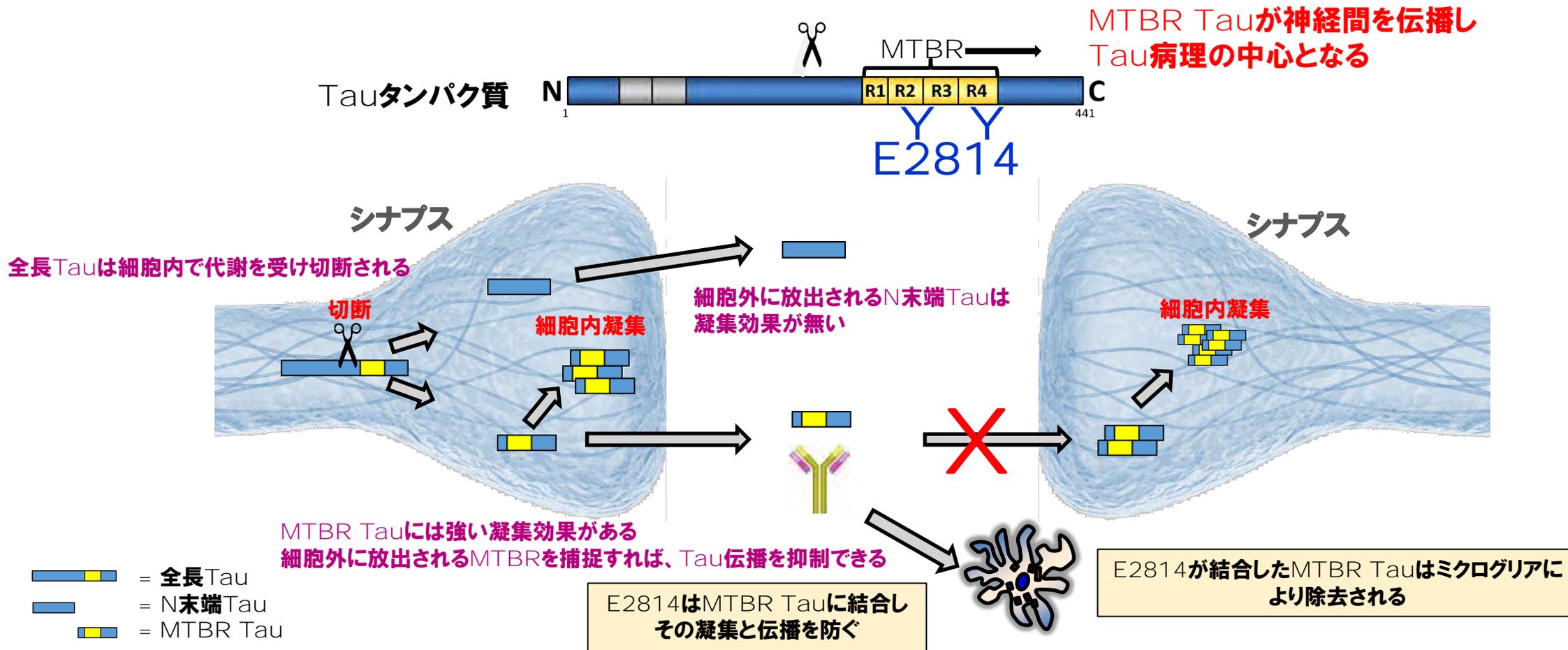
SC-AIとBBBBMを組み合わせることによって  
PET/CSFやInfusionに依存することなく  
かかりつけ医のAD診断・治療への本格参入が可能となる

- 診断・治療パスウェイの大幅な簡素化
- 当事者の通院などの便宜性の向上
- 専門医(Neurologist)中心から、  
かかりつけ医(PCP:Primary Care Physician)  
も主要な役割を果たす医療へ転換

# レケンビ価値増大、Game Changer 5 Preclinical ADによる拡大（2028年度）

- 治療開始タイミングの前倒し(MCI → Preclinical AD)
- 潜在当事者数は大きい（2032年 415百万人と推定、  
早期ADのおよそ1.5倍）
- 投与対象数のサイズは早期AD 3.3百万人、  
Preclinical AD 2.7百万人と想定（2032年）
- AHEAD3-45試験、フェーズIII試験  
組み入れ予定： A3;400例、A45;1,000例、順調に進行  
（BBBMトリアージ寄与）  
2028年度の承認を目指す

# レケンビ価値増大、Game Changer 6 E2814 (抗MTBR\* Tau抗体)



E2814はMTBR Tauに結合し、ミクログリアにより排除される  
このメカニズムにより凝集体(毒性本体)生成とその伝播を防ぐ

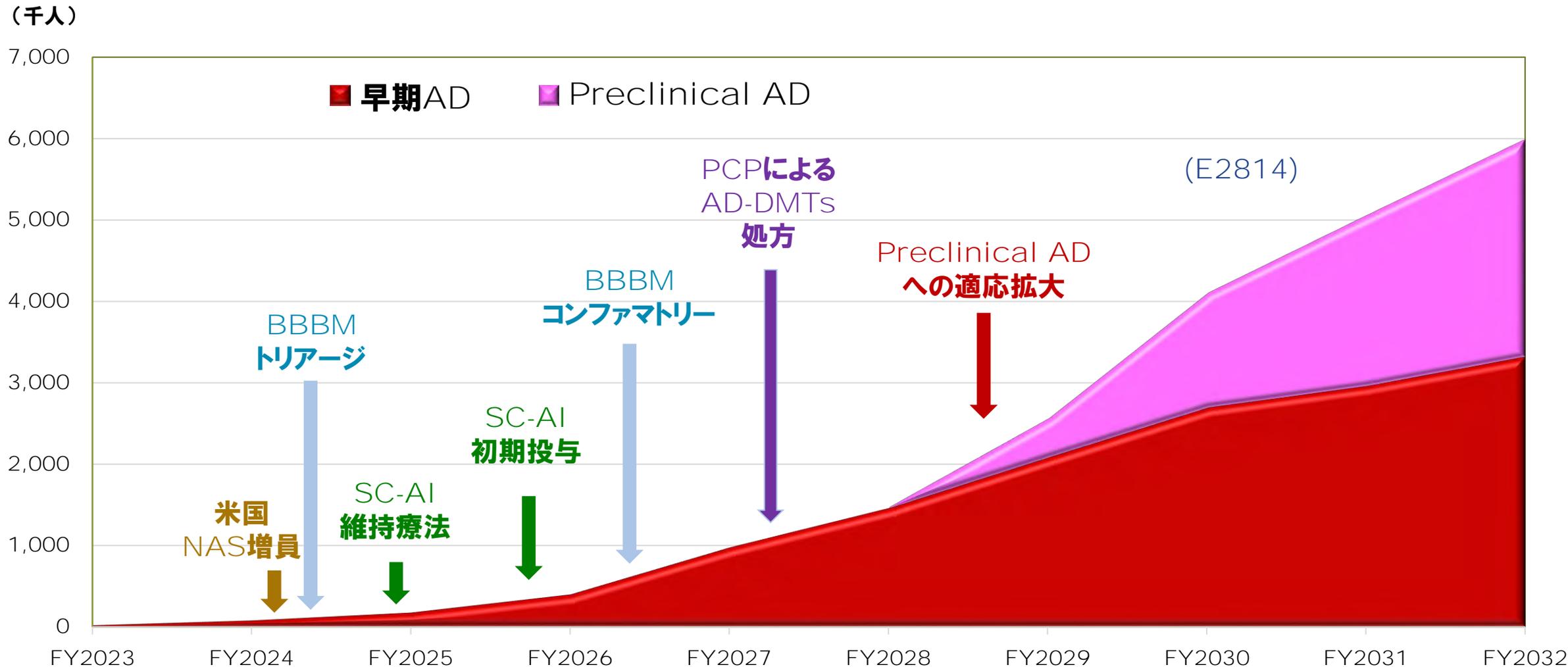
\* MTBR: microtubule binding region

# Game Changer 6

## E2814

- UCL\*<sup>1</sup> OriginでWash.U in St. Louisとの**共同研究**
- MTBR Tauの**毒性中心と考えられるフラグメント (R2~R4)をターゲット**
- **最新のヒト Biomarker研究によりPOM\*<sup>2</sup>を達成**
- DIAD\*<sup>3</sup>とSporadic ADでBiomarkerの**挙動の同一性を確認**
- **2030年度の米国承認を目指す**

# レケンビ価値増大のイベントを梃としAD-DMT<sup>\*1</sup>投与対象者数<sup>\*2</sup>は拡大



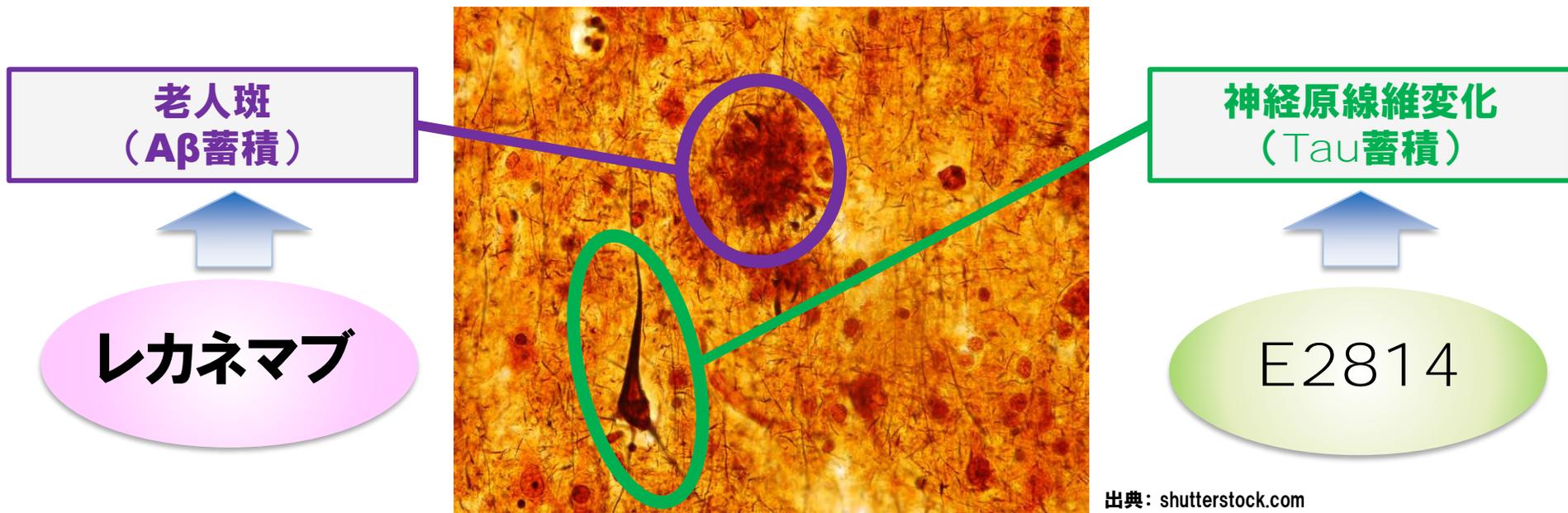
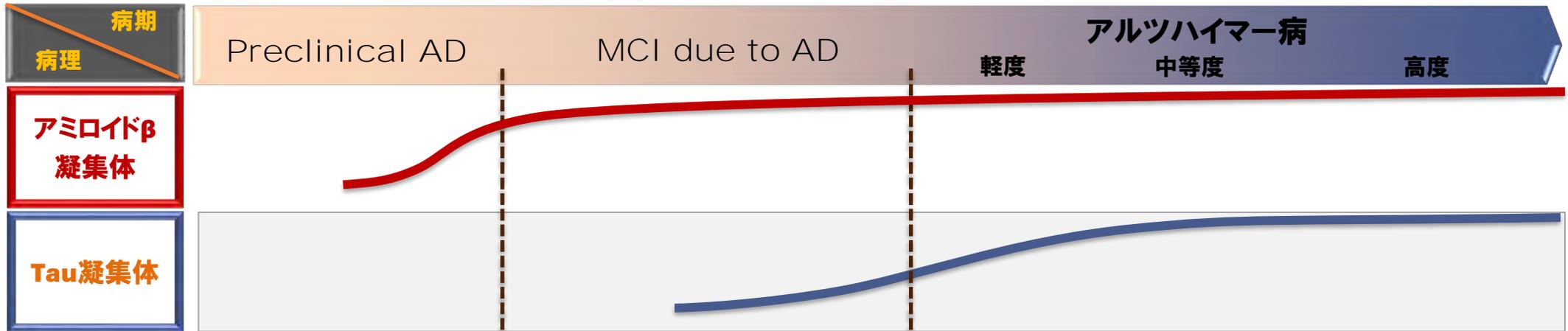
SC-AI + BBBM、Preclinical ADのインパクトは大きい

\*1 AD-DMT: Alzheimer's Disease-Disease Modifying Treatment \*2 社内推計

# レケンビ ADの未来を変える

# ADの未来を変える、ファクター 1

## 2大病理を克服する



# ADの未来を変える、ファクター 2

## 治療開始の早期化

アリセプト（1997年）

軽度および中等度AD



レケンビ（2023年）

MCIおよび軽度AD



レケンビ（2028年予定）

Preclinical AD



# レケンビ

## 現在の取り組み

### (2023～24年度)

# 眼目

**「診断・治療パスウェイ」  
構築の推進**

**「早期の治療開始と、プラーク除去後の治療継続が  
ベストの結果をもたらす」  
理解の推進**

# AD-DMTによる治療の診断・治療パスウェイ構築から 本格導入に向けた院内ステップ(米国)



## <パスウェイ構築ステップにおける主なKey Person>



**診断・治療パスウェイ構築はパイオニア的努力を要する**

\*1 IDN: Integrated Delivery Network \*2 P&T: Pharmacy and Therapeutics (薬事委員会)

# 米国における診断・治療パスウェイ構築状況

	2023年度末		
	ターゲット	完了予定*	達成度
パスウェイ構築 IDN数	80	72	90%
パスウェイ確立 神経科医数	5,200	4,200	81%
パスウェイ構築 Community施設数	1,000	640	64%

**全米の各地域においてAD治療の中核を担うIDNを筆頭に  
フィールドでのパスウェイ構築に向けた活動は着実に進展**

\* 処方開始施設

# 日本における診断・治療パスウェイ構築と治療導入状況

	2023年度末			
	初期導入 予定施設	パスウェイ構築 完了施設	導入開始*施設	導入達成度
大学病院/ ナショナルセンター	85	76	35	41%
基幹病院他	757	558	213	28%

- 上市後、実働50日余りで想定を上回るスピードでパスウェイ構築と処方導入が進展
- ARIAに関する講習は3,500名ほどの医師が受講を完了
- 数か月後の導入開始予定だった医療機関が予定を前倒し採用するケースは100施設程確認
- 全例調査締結は3月末で300施設超となる見込み

\* 処方開始

# 中国において目指すAD診断・治療パスウェイ

## スクリーニング

Commercial insurance

High-end Health checkup

High-end Nursing Home

### 商業医療保険

- 疾患啓発
- スクリーニング機会の提供
- 薬剤費負担軽減

### Private検診

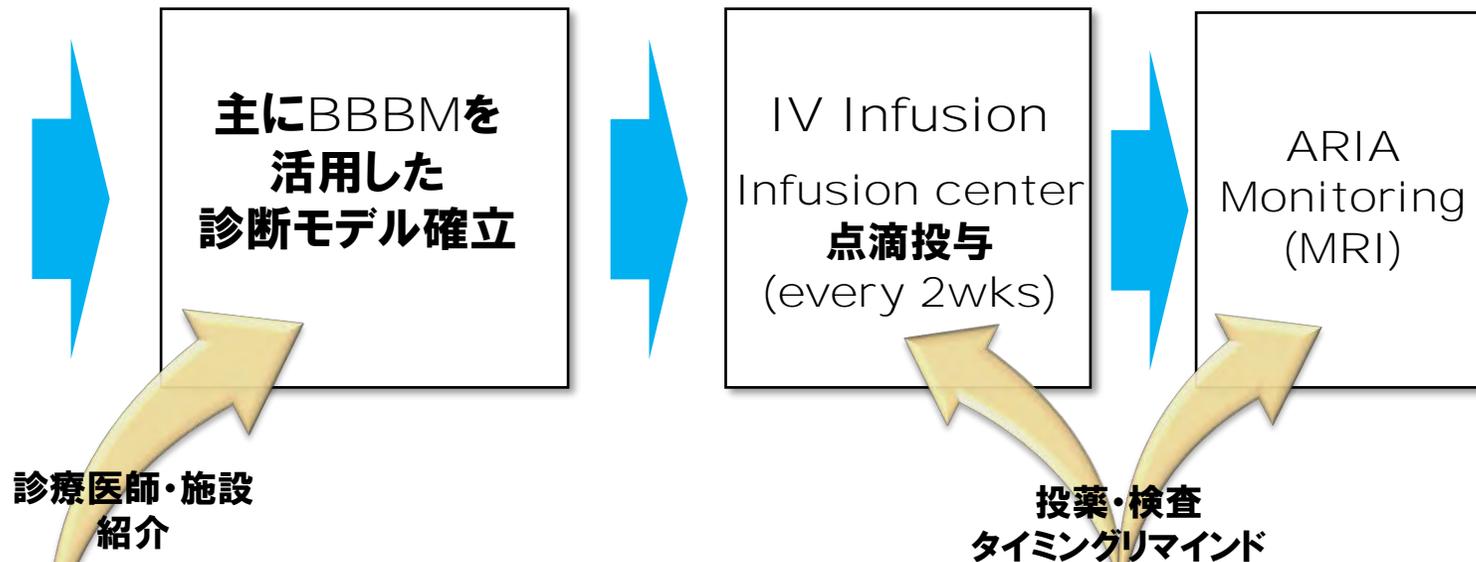
- 認知機能検査
- APOE4 test
- MRI

### ナーシングホーム

- 疾患啓発と教育
- 早期スクリーニング

## 診断

### 認知症専門医による診断・治療（オンライン）



**オンラインプラットフォーム: Yin Fa Tong (JD Healthとのパートナーシップにより構築)**

Memory Mapを介した専門医、**Aβ test site**、Infusion Centerの紹介

オンラインによるフォローアップ診療、**レケンビ投与・MRI検査のリマインド**

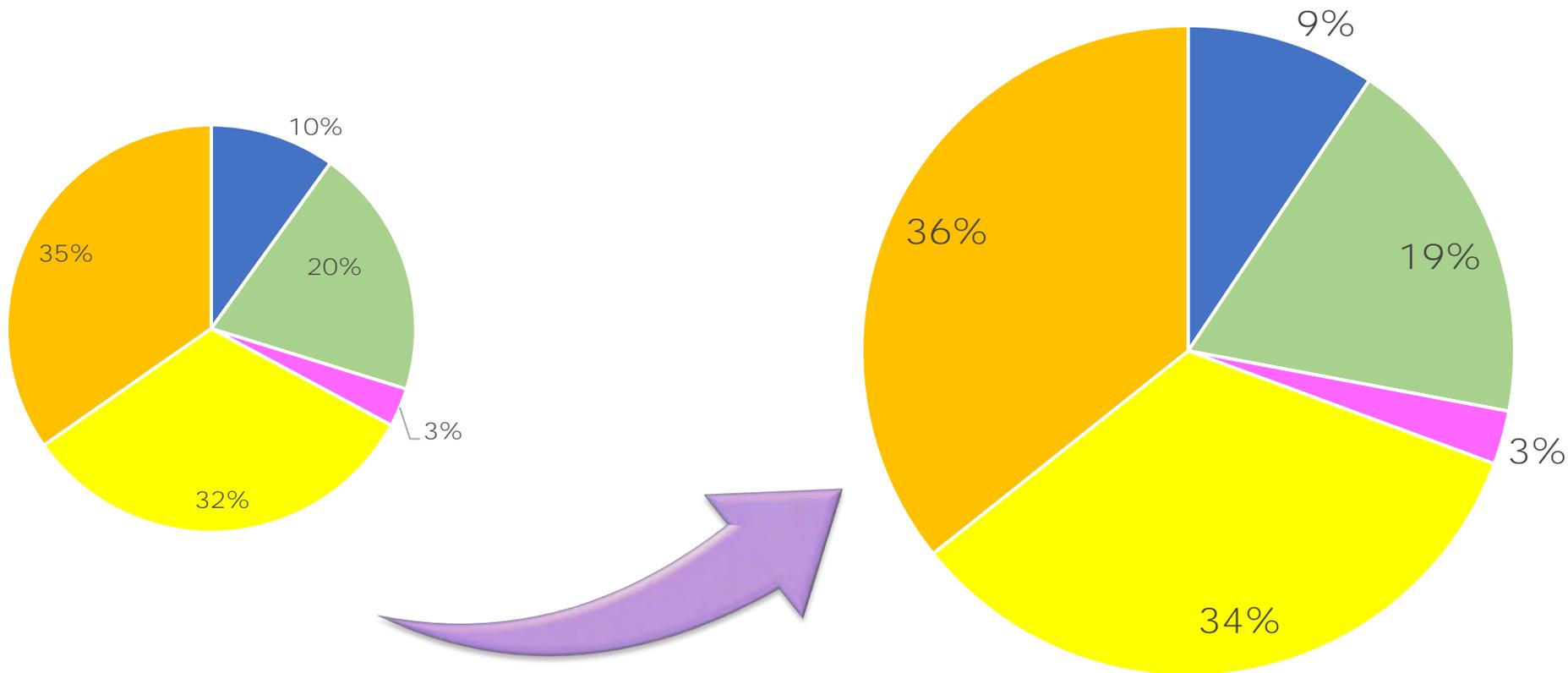
# 拡大するポテンシャル

# 早期AD 当事者数

2023年（1.8億人）

2032年（2.4億人）

- アメリカス
- EMEA
- 日本
- 中国
- ALA\*

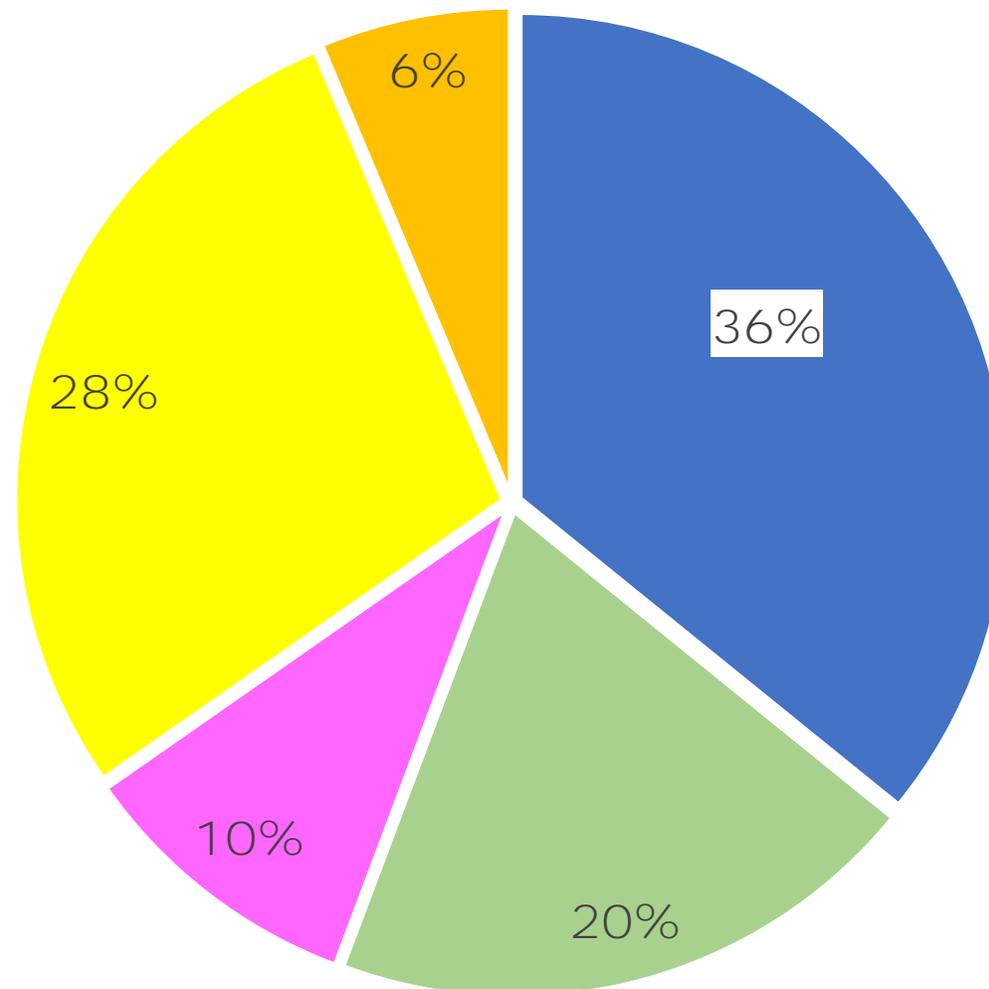
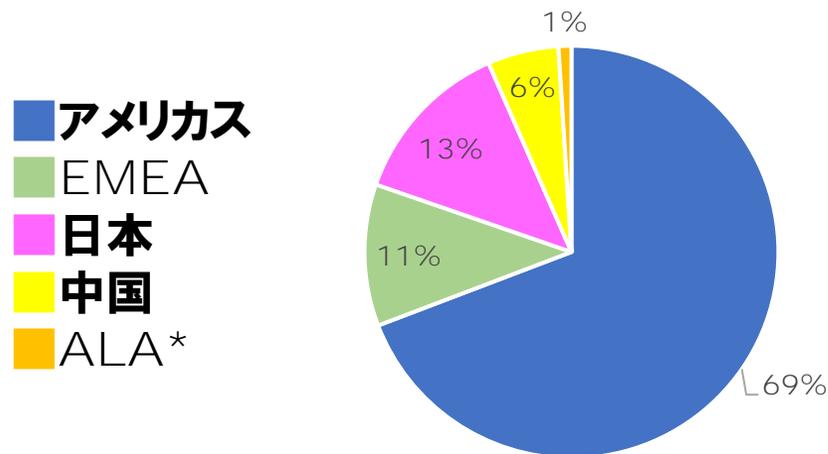


**当事者の約70%は中国、ALA\*に在住されている**

# 早期AD AD-DMT 投与対象者数

2026年度 (39.8万人)

2032年度 (332万人)



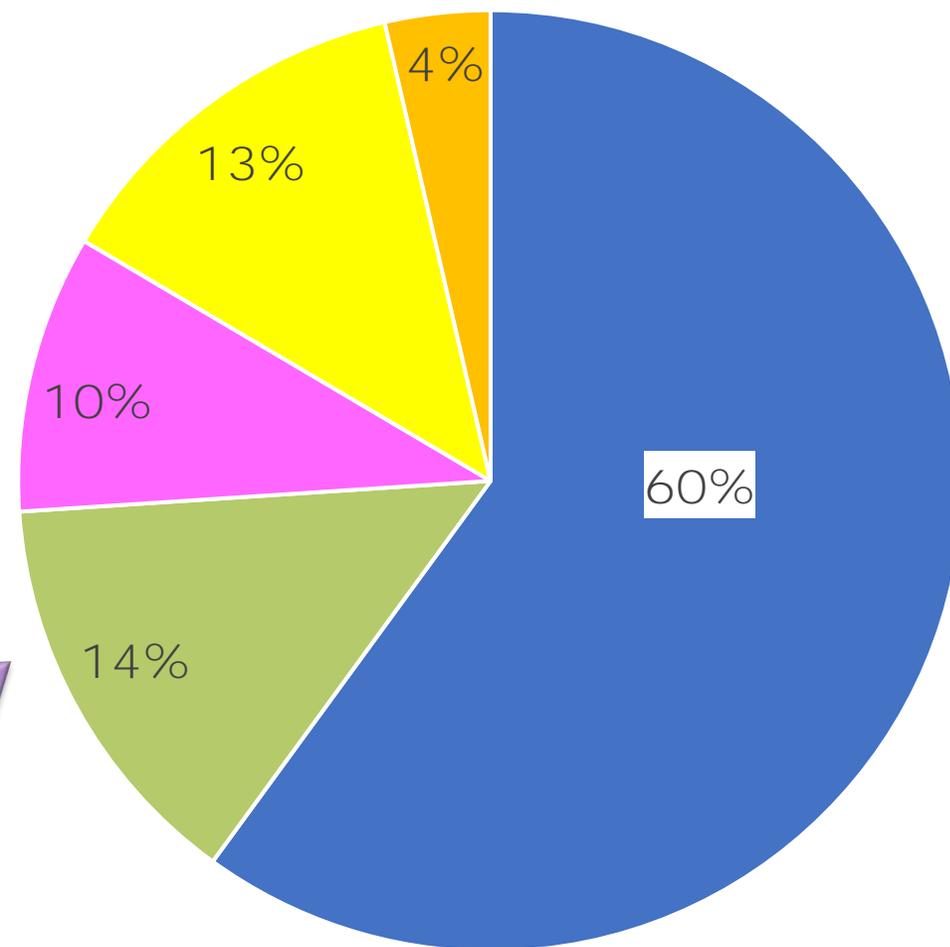
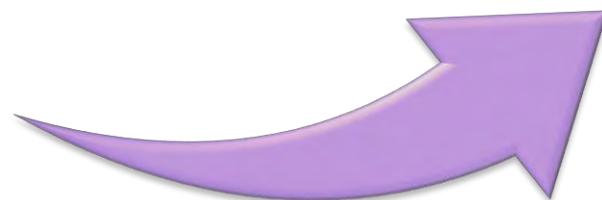
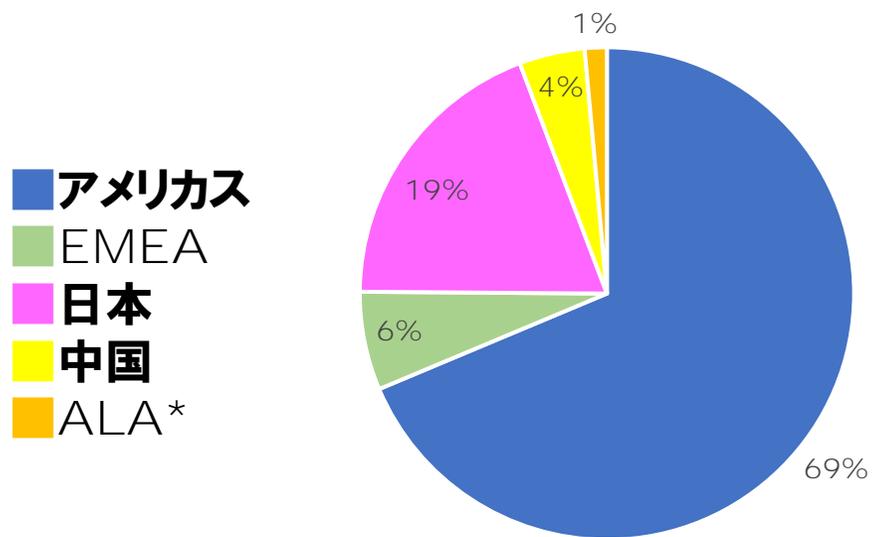
**AD-DMT 投与対象者数は2026年度から2032年度で8倍に増大**  
**AD診断・治療はパスウェイの簡素化やかかりつけ医の参画で拡充**

\* ALA : Asia and Latin America

# 早期AD レケンビ売上シミュレーション リージョン別

2026年度(2.9千億円)

2032年度 (1.3兆円)

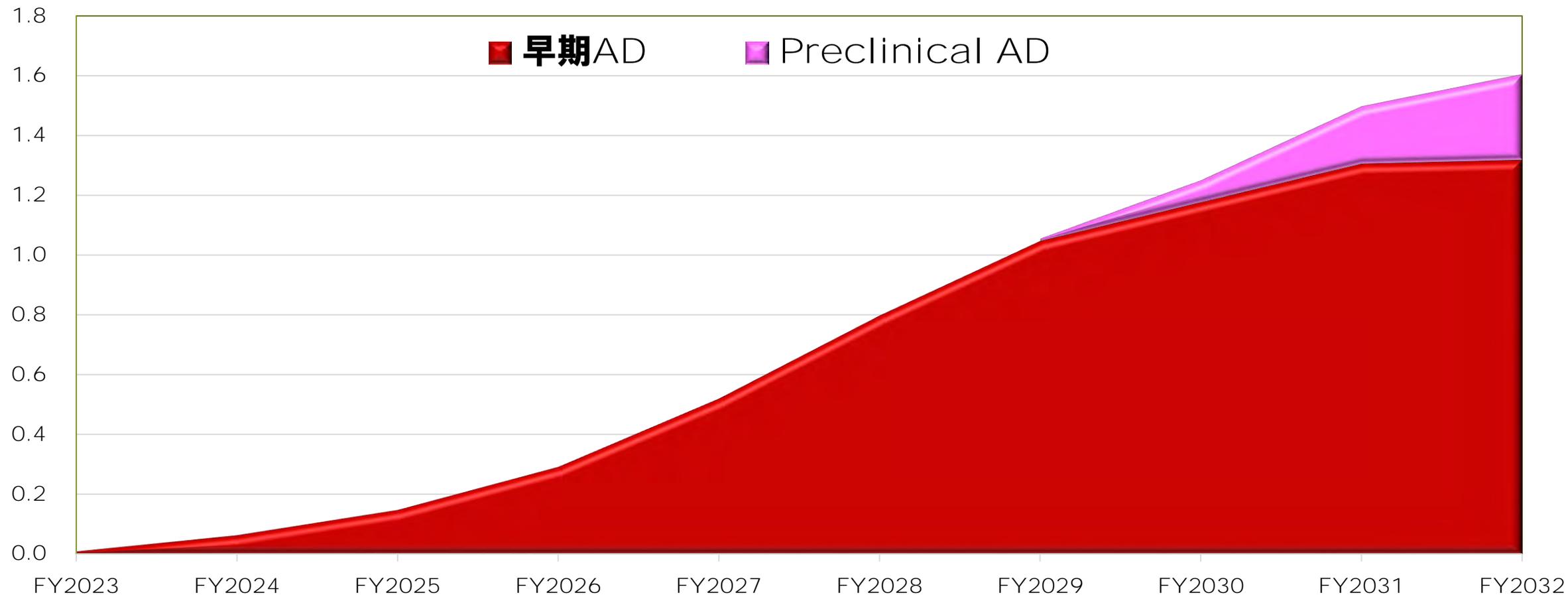


**レケンビ SC-AIとBBBMの普及はAD診断・治療パスウェイの簡素化と  
当事者便宜性の大幅改善をもたらす**

# 適応別レケンビ売上シミュレーション

早期ADとPreclinical ADにより2032年度1.6兆円の売上ポテンシャルを有する

(兆円)



Preclinical ADには一定のPOS(50%)を乗じている

# 米国におけるレンビマの特許訴訟

- 2023年5月、裁判所は、2015年8月出願の高純度レンビマ特許のクレームの解釈について当社に有利な判断を下した(“Markman” decision)。
- 特許権侵害訴訟においては、一般に、1. 相手方製品が自社の特許を侵害しているか否か、2. 自社の特許が有効か(進歩性等の特許要件を満たすか)、の2争点がある。2023年8月、SUN社及びShilpa社は、1 について、両社のジェネリック品が高純度レンビマ特許を侵害することを当社と合意した。これにより、本特許訴訟の争点は、2 の高純度レンビマ特許が有効か のみとなった。
- 当該訴訟についてIPD Analytics 社は、“Eisai appears to have the advantage in defending the validity of the ‘393 and ‘547 patents\*.” と分析している。Life-Cycle Insights (ipdanalytics.com), subscription access, February 14, 2024.

\* ‘393 and ‘547 patents :レンビマ高純度に関する特許

# 2032年度までの連結売上収益シミュレーション

## 1st フェーズ (2022~26年度)

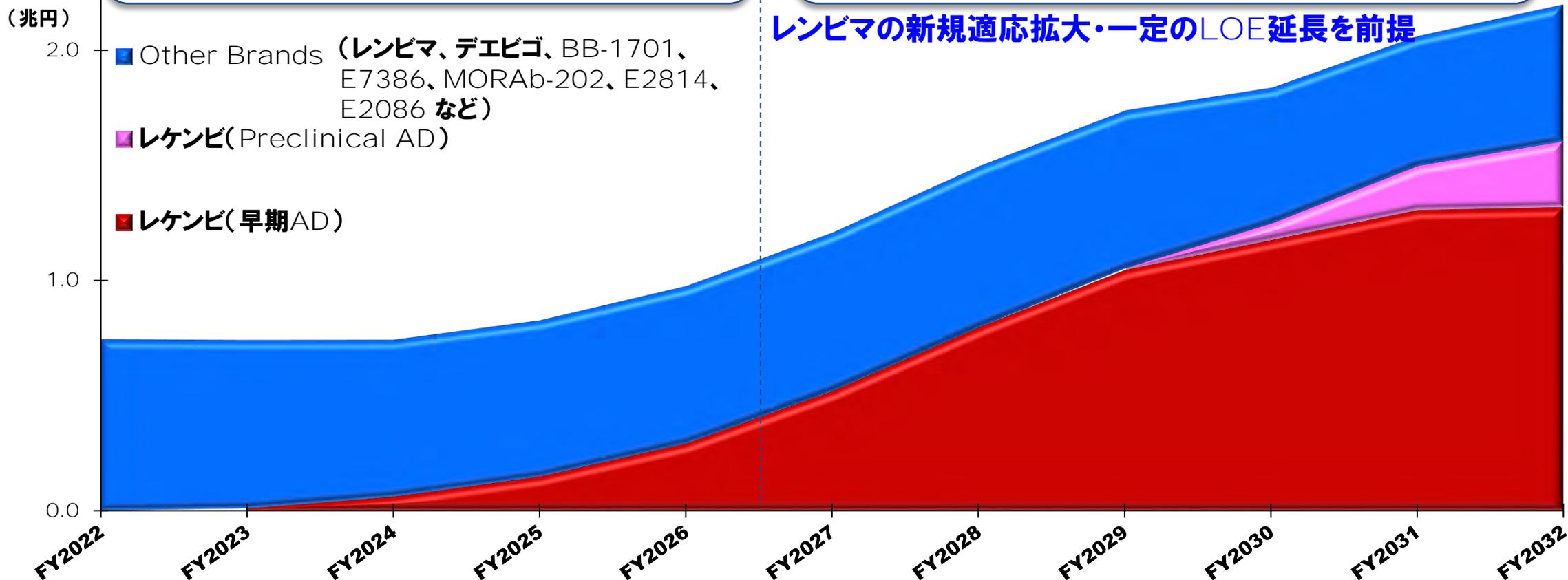
レケンビの診断・治療パスウェイのグローバルな構築・整備

- 2026年度 売上収益 1兆円レベル
- 営業利益率 1桁台後半~10%前後
- ROE 10年平均8.0%以上を確保

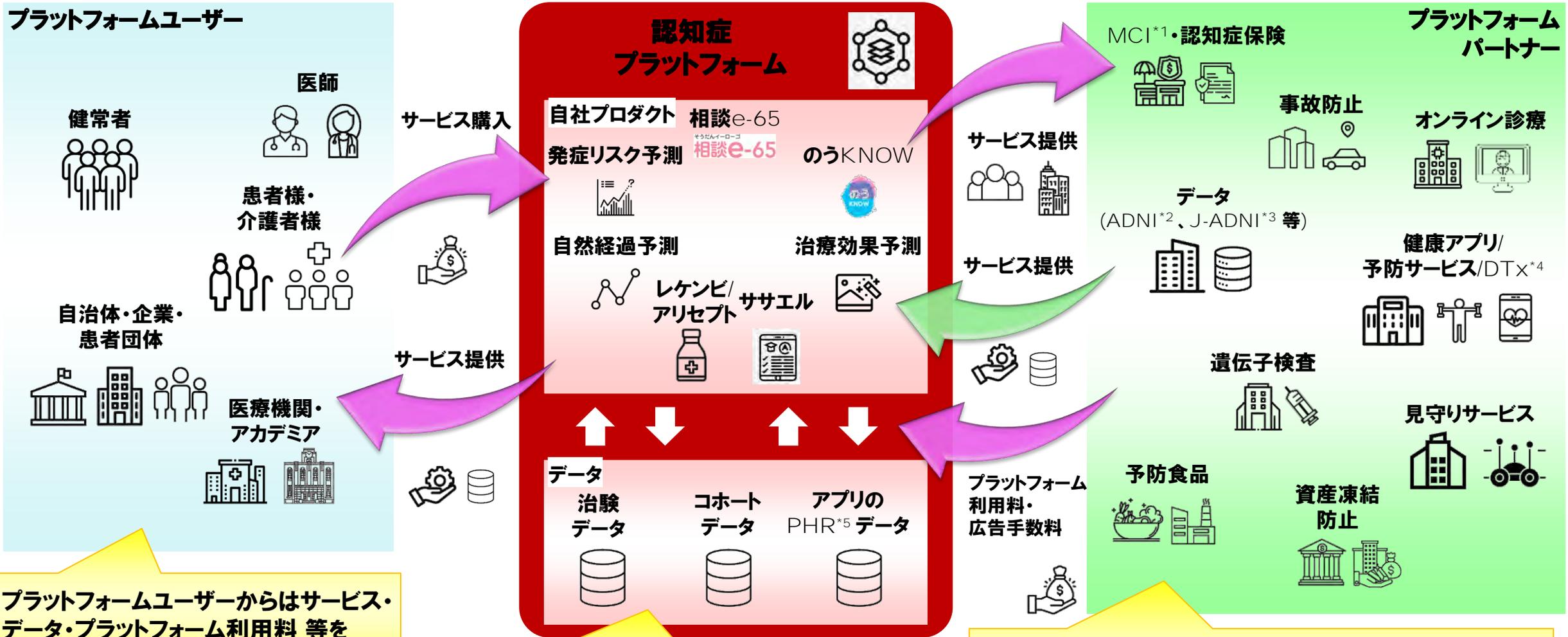
## 2nd フェーズ (2027~32年度)

診断・治療パスウェイが大幅に簡素化しAD治療が革新的に進展

- 2032年度には
- 売上収益 2兆円超
  - 営業利益率 20%レベル
  - ROE 25%レベル、10年平均15%レベル
  - DOE 15%レベル



認知症プラットフォームは、「MCI・認知症に関わる課題を抱えるユーザーと、その課題を解決できる自社・他社のソリューションを結びつける場」



プラットフォームユーザーからはサービス・データ・プラットフォーム利用料 等を獲得する

エーザイの強みは、薬剤に加え、これまで蓄積したデータをベースに開発する予測エンジン（例：発症リスク、自然経過・治療効果予測等）の保有にある

・認知症に関わる課題を自社のみで解決することは難しいため、多産業と資本を含め積極的に連携し取り組む  
 ・プラットフォームパートナーからはプラットフォーム利用料・広告手数料 等を獲得する

\*1 MCI: Mild Cognitive Impairment (軽度認知障害) \*2 ADNI: Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative \*3 J-ADNI: Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative \*4 DTx: Digital Therapeutics \*5 PHR: Personal Health Record

## 結語

効率的にリターンとインパクトを生む  
タレント・技術の集積により、  
現代社会の活力を削ぐ  
アルツハイマー病、難治性がんの二大疾患に、  
根本的治療薬を創出し続ける  
薬剤に加え、全てのステージで生きる人々に  
ソリューションを提供する  
疾患エコシステム プラットフォーマーへと変容する

# 将来見通しに関する注意事項

- 本資料中の目標数値はあくまで中期的戦略、めざす方向性、ビジョン等を示すものであり正式な業績予想ではありません。正式な業績予想は東京証券取引所規則に基づく年次決算短信での開示をご参照ください。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基くものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 当社の連結財務諸表は国際会計基準(IFRS)にて開示しています。